日本財団助成事業　社会的孤立を防ぐ地域コミュニティの構築　報告書

特定非営利活動法人地域障害者活動支援センター創生もえぎ

（2022.4.1～2023.3.31）

①みんなのリビング

4/1～3/31

基本的には毎日15：00～18：00までオープン（予定：249回　実施：180回　延べ798名利用）

利用者は当事業所の利用者や近隣事業所の利用者、居宅介護事業所からの紹介やチラシを見たという方が中心。

当初は利用の意思を示してもらうことを前提にしていたが、予定が立たない、急なキャンセルを考えると利用しにくいという声があがり常にオープンし自由に来てもらう形にした。

その効果としては「用事がなくなったから」「暇だったから」「話がしたくなったから」等の気軽な理由で利用する人が増えた。利用する人には簡単な茶菓子を用意し、自由に選んで飲食してもらい、毎回ではないがテーマを決めてレク等のプログラムも提供した。しかし、当初予定していたヨガ教室や英会話教室は依頼していた講師が新型コロナウイルス感染症を理由になかなか来て頂けずかなり回数が絞られた。代わりに当法人のスタッフに応援依頼し、スマホを安全に使用するためのレクチャーや外国語講座、動画を見ながらのストレッチやダンス等に切り替えた。様々な活動が制限されている中、当初の目標に対しては十分とは言えないまでも活動機会の提供はできたのではないかと考える。

②みんなの食堂

4/1～3/31　毎週木曜日・隔週火曜日　18：00～20：00（予定：77回　実施：70回（弁当14回）延べ695名利用）

コロナ禍であり、実施が難しい時期はお弁当配布の形を取った。顔を合わせて食べるよりもハードルが下がるのか、概ね好評だった。しかし、本来の「孤立を防ぐ」ということを考えた時に、果たして目的と合致するのかと悩みながらの実施であった。積極的に声をかけ、コミュニケーションを取るようにした。

通常の夕食は距離をとりつつあまり会話をしないような形での食事になったもののしっかり食べられるということで継続して参加される方が多かった。

③みんなのランチ

4/1～3/31　毎週土曜日　11：00～14：00（予定：50日　実施：40日　延べ271名利用）

地域の子供が参加したり、学生ボランティアが参加してくれたりと活気のある雰囲気で活動が進められた。継続的に参加する方、単発で参加される方様々であった。事業所が休みで時間をうまく使えない方などの参加もあり、改めて障害がある方の「余暇」をどのように支援していくかが課題となった。

④季節の行事

夏まつり（6/28　25名参加）

新型コロナウイルスの感染状況を見計らって実施。食券を用意しおまつり屋台風メニュー、くじ引きなど縁日の雰囲気を楽しめるよう工夫。ビンゴゲームなどもしながら久しぶりに開放的な雰囲気で実施することができた。行事が中止となっており参加者も予定を上回ったがボランティアの協力もありスムーズに実施できたこと、普段は難しいが季節ごとであれば参加したいという方とも繋がることができた。

ハロウインパーティー（10/29　24名参加）

地域の子供も参加して仮装パーティーを実施。食事を2部制にするなどして感染対策をしながら楽しむ。実施日が土曜日だったため子供の参加もあり賑やかに滞りなく終えることができた。

クリスマスパーティー（12/24　28名参加）

前回のハロウインパーティーを踏まえ、より多くの方が参加できるよう土曜日実施とした。滞りなく実施。

新年会（1/21　22名参加）

もちつきの予定だったが、新年会に変更。希望者は個室で1人ずつカラオケをするなどして楽しむ。滞りなく実施。

【見えてきた課題と今後】

地域の中には繋がりを求めている人、繋がりが必要な人がまだまだいるであろうことが見えてきた。しかし、1か所で深くつながるよりたくさんの機関がアンテナを張り巡らせていくことが重要だと感じた。「ちょっと困った」「なんとなく不安」「さびしい」を相談できず大きな苦しみになる前に気軽に相談できたり、気軽に立ち寄れる場所が必要であると改めて感じた。今回の事業で得た気づきや経験をを他の機関と共有し理解が深まるよう活動をしていきたい。

今後もみんなのリビングや季節の行事を継続し、食事の提供は予算の問題もあるのでどのような形で実施できるか検討していきたいと思う。

「安心できる場所」「孤立を防ぐ場所」としての役割を果たし、更に地域へ働きかけ地域と共に今回の事業をつないでいきたいと思う。